

特別号 郷音の杜

もう一つの響魂祭に向けて

新年あけましておめでとうございます。

皆様のご支援のお陰で、大きな問題もなく開園して八年目を迎えるようとしています。

昨年は新たに、児童家庭支援センターと一時保護専用施設をやらせていただくことになりました。職員数も五十名を超えました。社会的養護が必要な子どもたちを職員一同、皆で支えていきたいと思っています。

今、世の中が大変なことになっています。

昨年、施設内誰一人、新型コロナウイルスに感染させてはいけなさと、徹底して検温、消毒、マスクの着用、施設内三密を避け、さらに不要不急の外出を自粛するなど、出来る限りの対策を行ってきました。楽しい行事も自粛してきました。にもかかわらず、コロナは終息するどころか、感染拡大の一途を辿っています。私たちはゴールなきマラソンを走っているようです。

今年はコロナの終息というゴールを目指して走るのではなく、どんな環境にあっても、環境に応じた走り方で、一日一日を大切に、健康であることの喜びを噛み締めながら、今できることをやっています。



うと思います。

三食ご飯が食べられる幸せ、温かいお風呂に入られる幸せ、そう考えると私たちは恵まれているのかも知れません。さらに皆様から、たくさんの方の支援を頂いているのですから。これ以上の幸せなことはありません。

毎年、「心からのありがとう」を届けたくて響魂祭を開いているのですが、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止にせざるを得ませんでした。日頃から子どもたちに、感謝と謝罪の心が持てる人になろうと言っています。「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える人。

今回、子どもたちからの「ありがとう」のメッセージを直接お届けすることはできませんが、子どもたちは、「心からのありがとう」の気持ちを伝えたいと言っています。その気持ち、どうか受け取ってあげて下さい。一生懸命作っていました。

今回はこんな形になりましたが、今年の秋には皆様を招いて、最高の響魂祭をお届けできることを願っております。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
今後とも末永く宜しく願います。

千葉みらい響の杜学園 園長 渡部靖久

